

# とうかつ 第32号

# 普及だより

<http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-toukatsu/>

平成25年2月発行

発行：千葉県東葛飾農業事務所

改良普及課

東葛飾農林業振興普及協議会

住所：柏市柏 255-1

電話 04-7162-6151

FAX 04-7162-6154



研修会では、より良いクラブを目指して話し合いました

東葛飾地域は千葉県内でも農業後継者が多く、市川市、鎌ケ谷市、流山市、船橋市、松戸市において農業青少年クラブ（4Hクラブ）による活動が行われています。

各組織（計105名）とも20から30代の若手農業者で組織され、栽培技術の向上や仲間づくりが主な活動内容です。普段はクラブ毎に視察やプロジェクト活動を行っています。イベントでの農産物販売や地域農業

次世代のリーダーの育成を目指して！  
農業青少年クラブリーダー研修会の開催

のPR活動のほか、共同ほ場を使って幼稚園児等を対象に収穫体験を行うなど地域との交流を通じ、社会貢献にも取り組んでいます。

また、全クラブ合同によるリーダー会議の開催やクラブ通信の発行、交流会の実施などクラブ同士の情報交換にも努めています。

農業事務所では、地域のけん引役に成長する上でリーダーとしてのコミュニケーション能力を向上してほしいとの考えから、二年に一度現リーダーや次期リーダー候補を集めた研修会を行っています。

今年「年齢がバラバラで様々な考えを持つクラブ員をまとめるのが難しい。」という会長の声を受け、7月23日に「コミュニケーションがとれるチームづくりに必要なリーダーシップを学ぶ」というテーマで研修会（23名参加）を開催しました。当日は、ゲーム形式のグループワークを通して、意見が出しやすい雰囲気づくりのコツを学びました。また、クラブごとに分かれ、クラブ員の



共同ほ場で幼稚園児がイモ掘り体験をしている様子

良さを引き出すチームづくりや理想のチームづくりに必要なリーダーシップについて各自が真剣に考え、議論を交わしました。

参加者からは「お互いがクラブ員同士に関心を持ち、対話を重ねることが必要である。」という共通認識が得られ、組織における意思決定の際には、グループ分けして話し合う方法を実践したいなどの感想が聞かれました。

当事務所では今後も、農業後継者が課題解決能力、組織運営能力を身につけて地域のリーダーとして活躍する人材となるように支援していきます。

### 商品開発のヒントを

つかもう!

レベルアップ研修会開催!

農業事務所では、加工起業家や起業活動開始を意向する女性農業者を対象に研修会等を開催しています。

12月11日、野田市の先進的起業家山中幸子氏を講師に、まんじゅう講座を開催しました。調味料や加熱の加減が、素材ごとに違うことを確認し、参加者からは、「こんなまんじゅうを作りたかった。」「アレンジして商品化した。」等の感想が聞かれました。今後も農業者の起業活動が活発に行われ、新たな商品が開発されることを期待します。



まんじゅう3品と野菜砂糖漬け2品

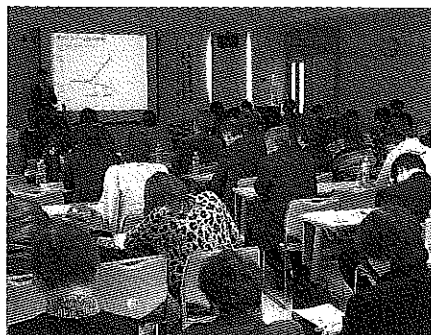
### これからの農業経営を

考えよう!

農業経営改善研修会開催!

11月29日、「農業経営の夢を共有するために必要なこと」をテーマに農業者、指導農業士、関係機関等60名参加による研修会を開催しました。

農業生産法人(株)オーガニックネットワークの石井宏治氏から講演をいただき、その後のワークショップでは参加者全員で「わが家の経営ここを変えたい」をテーマに意見交換しました。参加者からは「目標を共有することの重要性を感じた。」と好評でした。また、今回の研修会を受けて改めて家族経営協定の必要性が認識されました。



情熱あふれる石井氏の講演

### 経営力アップを

目指しています!

さわやか女性セミナーの開催!

農業の低迷が続く中、力をつけた女性の活躍が各地で話題を呼んでいます。国でも後継者として農業女性への期待が高まっています。

そのような中、当事務所では若い女性農業者の学習・交流活動の場として「さわやか女性セミナー」を開催し、現在32名が参加しています。

今年度は全体セミナーに加えて、トマト、なし、ねぎ等の栽培の知識・技術を中心とする部門別研修を6部門開催しています。

最近、農業に携わる女性は農業に関わる機会を持たずに嫁ぎ、結婚後子育てを経てから農業に従事するという状況が多く、「見よう見まねで農業をしてきた。なぜなのか」という基本的なことが分かってよかったです。

「こんなことを知らないでやっていたのかと言われそうで聞けないことが、聞けて楽しい。」と好評です。

部門別研修は、セミナー生以外でも、農業の基本知識・技術に興



ほ場で剪定作業の演習



画面に集中して講義を聴くセミナー生

味のある農業女性にも参加を呼び掛けています。興味のある方は、改良普及課までお問い合わせください。

# 対策必須!

## 「トマト黄化葉巻病」

「トマト黄化葉巻病」は平成14年に千葉県で、その発生が確認されて以来、発生地域が拡大しています。

本病気は、体長約1mmの「タバココナジラミ」(写真右)が、トマト黄色葉巻ウイルス(TYLCV)を媒介することで引き起こします。

発病すると、生長点付近の葉が黄化し、内側へ巻き込む症状を呈



(写真左)

(写真右)

し(写真左)、収量が著しく減少します。

本病の対策は、タバココナジラミ(以下コナジラミ)の防除や病株の除去を徹底して行うことが重要です。ポイントは以下、①入れない、②増やさない、③出さないことです。

### ①入れない

使用するハウス内に、コナジラミを入れないことがカギとなります。

栽培開始前に、ハウスの破れがないかを確認し、開口部には、目合い0.4mm以下の防虫ネットを張り張ります。

注意点は夏季の高温対策(換気や遮光等)です。

また、生育初期に感染すると被害が大きくなるため、育苗期及び定植直後の徹底した防除が特に重要です。

具体的には、「黄色粘着板」を設置して、育苗期又は定植時に粒剤(スタークルまたはベストガード)を施用します。

また、コナジラミの発生初期は、薬剤をローテーション散布し、防除を徹底します。

### ②増やさない

万一、感染した株は、速やかに

抜き取り、肥料袋等に入れて密封します。全身にウイルスが感染しているため、必ず株全体を処分します。

### ③出さない

次作への感染を防ぐため、栽培終了時はトマトを株元から切断し、ハウスを密閉してトマトを完全に枯らすことで、コナジラミを餓死させ、夏季は高温で死滅させます。

周年栽培の場合は、トマトを栽培しない期間を設け、コナジラミを根絶する必要があります。

## 千葉県品種審査会

### 「えだまめ」の結果について

平成24年7月12日、野田市において開催された品種審査会の結果について報告します。

今回は12社から21品種が出品され現地圃場にて栽培されました(主な栽培概要については下表右のとおりです)。

なお、審査は立毛及び収穫物において実施するとともに食味も加味し、実施されました(審査結果については下表左のとおりです)。

### 審査結果(上位3品種/全21品種)

順位	品種名	出品社名
1位	おすすめ枝豆	横浜植木(株)
2位	美濃錦	不二種苗(株)
3位	湯あがり娘	カネコ種苗(株)



### 主な栽培概要

は種	4月12日		
定植	4月25日		
栽植距離および密度	3315グリーンマルチ使用		
	ベツ幅	135cm(条間 15cm)	
	1株植え		
施肥量(10a当たり成分量)	(kg)	(kg)	(kg)
	窒素-りん酸-加里	5	15.25

は種時から、パスライトで被覆(5月4日まで)

# 玄米への放射性セシウム吸収抑制について 加里の施用が有効です！

玄米における放射性セシウム吸収の要因は、土壌中の放射性セシウム濃度が高いことに加え、土壌中に肥料成分である加里が少くないことが指摘されています。このことから、土壌中の加里含量を適正に維持するとともに深耕することが有効です。

## 加里の施用が大切

国等の調査結果から、放射性セシウムは土壌中の加里含量が少ないと玄米に吸収されやすいことが分かっています。このことから、施肥基準量(表1)の加里を施用することが必要です。

【表1】 加里の施肥基準 (kg/10a)

基肥	穂肥	計
6~8	2~3	8~11

また次のア・ウに該当する場合は土壌中の加里含量が少なくなることを予想されますので表2の加里肥料を必ず施用します。  
ア. ちばエコ農産物認証制度な

どの減化学肥料栽培や水稲の倒伏を回避するため窒素の施用量を控えるなど、結果的に加里の施用量が少なくなつた水田イ. 基肥一発型肥料の利用により穂肥分の加里施用量が少なくなつた水田ウ. 稲わらを水田から持ち出した水田(稲わらには加里が多く含まれています。)

【表2】 加里肥料の保証成分

肥料名	保証成分 (%)	容量 (kg)	1袋あたり加里成分量 (kg)
塩化加里 (粒・粉)	58~62	20	11.6~12.4
けい酸加里	20	20	4

深耕による放射性セシウム濃度の低下  
深耕ロータリや深耕プラウを行い、水稲の根域となる土壌中の放射性セシウム濃度を低減します。

① 基肥施用前の土壌中の交換性加里含量を10アール当たり25ミリグラムまで高めることで、土壌から玄米への吸収を抑制できると考えられますので、表3を参考に加里肥料を増肥します。(土壌中の交換性加里含量が10アール当たり10ミリグラムの場合)

② 30センチメートル程度まで深耕を行って表層の放射性セシウム濃度を低減します。但し、地力の低下を考慮する必要があります。不明な点については改良普及課までお問い合わせ下さい。

③ 30センチメートル程度まで深耕を行って表層の放射性セシウム濃度を低減します。但し、地力の低下を考慮する必要があります。不明な点については改良普及課までお問い合わせ下さい。

【表3】 交換性加里含量を25mg/10aまで増加させるために必要な加里の基肥施用量

施肥前の交換性加里含量 (mg/100g)	加里 施用量 (kg/10a)	各資材における施用量	
		塩化加里 (kg/10a)	けい酸加里 (kg/10a)
0	37.5	63	188
5	30.0	50	150
10	22.5	38	113
15	15.0	25	75
20	7.5	13	38
25	0.0	0	0

注1) 作土層を0~15cm、仮比重1.0として計算

注2) 加里含有率は塩化加里が60%、けい酸加里が20%として計算

《土壌中交換性加里が10mg/100gの水田の場合》

基肥に **38** kg/10aの塩化加里を追加して施用します

★倒伏の懸念が無い水田では加里増加のため稲わらを鋤き込みましょう★

## 梨の苗木栽培管理

(定植・剪定)に関するアンケート結果について

東葛飾農業事務所では、改植及び早期成園化推進を目的に、苗木管理に関するアンケートを実施しました。以下に結果の一部と、そのとりまとめをご紹介します(管内を中心とした生産者101名が回答)。

### ●アンケート結果まとめ●

- 計画的な改植を行っている回答者が全体の1/4に留まっている(問1)。
- 苗木の品質に対する意識が高い。活着を促すため、植え穴の土詰めや苗木固定の意識は高い。その一方、忌地回避のための植え穴移動や根張り向上のための堆肥施用位置に対する意識が低い(データ省略)。
- 剪定時には、主枝を高くする管理は十分実施されているが、固定に対しては管理が十分でない(問2及び問3)。
- 剪定時には、主枝の伸長だけでなく、側枝候補を確保しながら、樹冠の拡大を行っている(問4)。

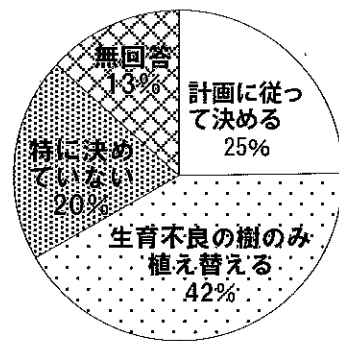
問2 剪定時に主枝先は高くしていますか？

	高くしている	意識していない	無回答
定植1年目	88%	6%	6%
定植2年目	73%	8%	19%
定植3年目	71%	26%	3%

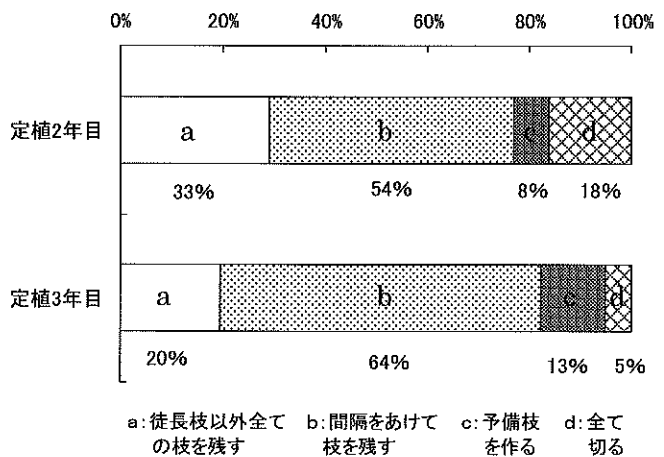
問3 剪定時に主枝先は固定していますか？

	固定している	固定していない	無回答
定植1年目	65%	15%	20%
定植2年目	66%	34%	0%
定植3年目	63%	17%	20%

問1 一年間に定植する苗木の本数はどのように決めますか？



問4 主枝から発生した枝をどのように剪定しますか？



- **改植を成功させるために**
- ① 苗木育成において、定植時から定植3年目までは、苗木管理のための時間をしっかりと設け、以下の管理を行う。
  - ・ 苗木は固定し、根の周辺が乾かないようしっかりと土を詰める。(定植時)
  - ・ 主枝先は一番高くし固定する。(剪定時)
  - ・ 主枝伸長だけでなく側枝確保を意識した整枝剪定をする。
- ② 改植は、将来の経営や苗木育成に要する時間と労力を考慮し、計画的に行う。

## 水稻の育苗について

平成24年産は3月下旬には種した苗で、もみ枯細菌病が多発生しました。これは種後5日から出芽期のハウス内温度が高かったことが原因です。

### 種子消毒と床土の準備

種子消毒はヘルシードTフロアブルまたはテクリードCフロアブルを使用し、浸種の温度は10〜15℃で行います。また育苗用土にはフタバロンA粉剤を混和します。

### 薄まきでガッチリ苗を

催芽は30℃で行い健苗を育成するため、は種量は1箱当たり乾籾で130〜150gの薄まきとします。

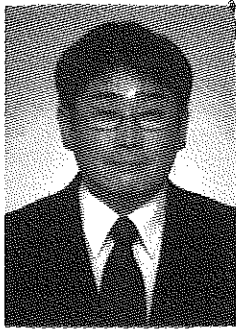
### は種後の温度管理が肝心

細菌性病害の発生を予防するため床土の温度を30℃より高くないよう育苗箱と同じ位置に温度計を置いて温度管理を徹底しましょう。(特には種から出芽揃いまでは注意が必要です)

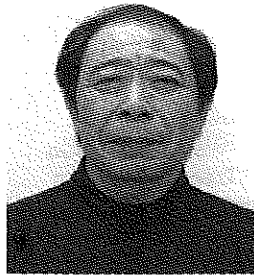
また、夜間など低温(5℃以下)となる時は保温に努めましょう。

千葉県農業士等  
新規認証者の紹介

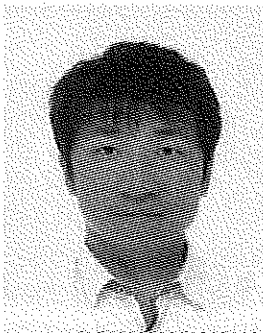
平成24年11月16日(金)、千葉県県庁において第36回認証式典が行われ、当地区から指導農業士1名、農業士5名が認証されました。今後も地域リーダーとして、また、担い手育成活動について活躍が期待されます。



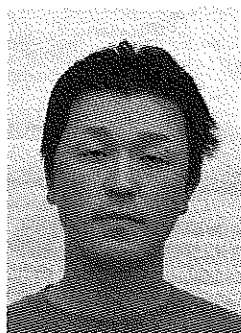
農業士  
齋藤昇氏(船橋市)  
果樹経営



指導農業士  
三橋敬氏(鎌ヶ谷市)  
果樹経営



農業士  
石井治由己氏(鎌ヶ谷市)  
果樹経営



農業士  
吉田健人氏(鎌ヶ谷市)  
果樹経営



農業士  
小倉浩氏(流山市)  
施設野菜経営



農業士  
柳澤孝行氏(船橋市)  
露地野菜経営

平成25年度

農業経営体育成セミナー生の募集

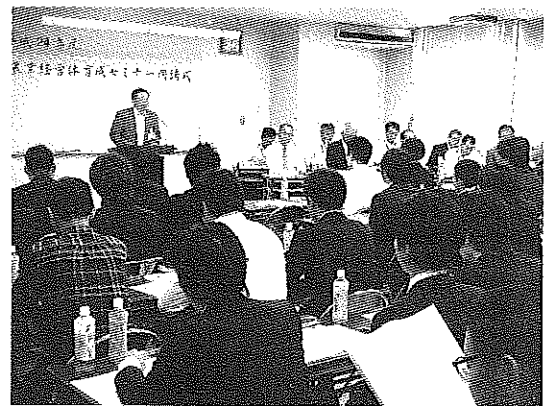
東葛飾農業事務所では、就農初年から数年までの農業後継者(概ね40歳以下)を対象に地域農業の担い手の育成を目的に農業経営体育成セミナーを開催しています。平成24年度は76名が受講しています。

この農業経営体育成セミナーは毎月1~2回程度、3年間の継続した研修を行い、農業経営に関する知識・技術の学習を行います。修了者からは、「セミナー受講生同士の交流や幅広い農業知識と専門的な知識が身につく、大変良かった。」と好評です。

平成25年度農業経営体育成セミナーは、5月開講予定です。4月以降に新規受講者を募集します。

受講希望やお問い合わせは改良普及課へ。

また、お近くの農業後継者に是非、お知らせください。



~平成24年度開講式より~